

たきのうえ を思う

旭川市在住
村山 望 さん



人生の原点「滝上」

中学の教員になって十五年になります。子どもの頃から学校の先生は憧れの職業の一つでした。お世話になった先生方はみなさんとても個性的・魅力的で、私もそんな大人になりたいと思ったことがきっかけでした。

濁川小学校に通っていた頃は興味のあることを手当たり次第いろいろとやらせていただきました。当時、庭園に池があって魚が泳ぐ姿をながめるのが好きでした。そこから

釣りに興味を持ち始めたのも小学生の頃でした。スキー場周辺の小さな川をはじめとして、錦仙峡周辺もよく釣り竿片手に歩きました。その中で、植物や昆虫にも興味が向いたことは、ある意味自然な流れだったように思います。



濁川小学校

滝上中学校に進学すると時間の使い方の中心は部活動になりました。音楽の素養がまったくなくなかった私が吹奏楽部に入ったのは先輩方のおかげでした。これが高じて音楽大学への進学、音楽教員へとつながったわけですから。

練習は決して楽しいことばかりではありません。演奏することに必

死だったというのが本音でした。少しずつ上手になることに喜びを見いだしながら3年間練習を続けました。ちょうど、私が入学する前年に楽器の多くが新品に更新されたこともあり、みんな公立の学校としては珍しいピカピカの楽器でした。演奏会やコンクール、町内のパレードなどいろいろ演奏しました。いちばん記憶に残っているのは卒業式のあと、小雪が舞い散る玄関の外で演奏したことです。ものすごい寒さでした。



滝上中学校

川県川崎市に移り、いよいよ滝上が遠くなりました。離れてみて改めて感じたのが滝上の人々や自然の素晴らしさです。特に川崎市に移ってからは「きれいな空気」の意味を知りました。「水がおいしい」という感覚を知りました。なにより、「人のつながり」を思い知ったことは私の人生に大きな影響を与えてくれました。

お祭りでみんなが盆踊りに参加し、相撲をとり、もちまきをすることは素晴らしいことです。地域の方々がみんな集えること、互いに知り合いの関係は決して『あたりまえ』ではない、とつても貴重な文化なんだと気付かされたのです。

いま、自らが教壇に立つ身になり毎日が自問自答の日々です。けれども、滝上で育った感性だけは住む場所が違えども持ち続けたいです。単に教科の知識だけではなく、人と人のつながりや自然の良さを伝えられる教師でありたいです。

中学まで滝上で過ごし、高校は旧紋別北高校へ進学したため生活の拠点が変わりました。大学では神奈